

**4月是完全休業、5月から妊産婦受け入れ開始**

3月に発出された保健省の厳しい感染予防基準を満たすのは難しく、休業していた助産所は、手洗い・器具消毒等の予防体制を整えて、5月から妊産婦検診や出産介助を再開し、13人(7/20現在)の赤ちゃんをとり上げました。一方、助産所は初産や5人目以降の出産を扱えないので、病院を紹介したケースが7例ありました。助産所の安定経営にはより多くの出産を扱いたいところですが、今後も「母子の命を守る」を最優先に、病院と連携しながら頑張っしてほしいです。

**とり上げた赤ちゃんは69名**

4月末、助産所の2019年度実績報告が届きました。

出産	69	妊婦検診(延べ)	214
家族計画指導・処置	22	新生児テスト	73
健康	113	男児対象割礼	38

**今年の課題・診療車**：12年前に寄贈の診療車が完全に修理不能となりました。中古車でも35万ペソ(約77万円)で即支援は難しいですが、急患対応、総合病院への転送に必須の課題で、助成金申請を含めて支援方法を検討中です。

— 惜別 — ハッサンありがとう！



左から、ナプサさん、ハッサン、助産所スタッフ(助産所で)

PIHS 代表ナプサさんの夫で、助産所を含む各種活動の良き助言者でもあった通称ハッサン(Rony Serominos氏)が、去る5月29日、何者かに銃で殺害されました。サランガニ州のバランガイ・カワスの首長として、貧しい人々、社会的弱者の立場に立ち、国家権力に立ち向かうこともあったハッサンの死に対して、ナプサさんはキリスト教やイスラム教指導者など、人権無視のドゥテルテ政権への懸念を表明している宗教者たちの応援を得て、真相究明の運動を始めました。新たな犠牲者を出さないため、私たちがカンパで応援しています。バランガイ・キャプテンになる前の10年余りは、診療車ドライバーとして、毎回私たちのコミュニティ訪問に同行、治安が悪い地域は猛スピードで走り抜けたり、ナプサさんはじめ女性主体のPIHSの用心棒でもあったハッサン、どうぞ安らかに！

**マスク200枚のご寄付に感謝**

ハッサンの悲報が届いた翌日、日比NGO ネット/JPNを通じて、沖縄の市民からのマスク200枚寄付申し出のお話をいただきました。ミンダナオで活動する現地NGOということで、医療チームとしてマスクのニーズが高く、かつ、日ごろから各種支援への報告が遅滞なく届いている点でPIHSを推薦させていただきました。

事件直後で、対応が大変ではとの懸念もありましたが、マスク寄贈が励ましとなって、PIHSの「母子の命を守る活動」がコロナ以前の状況に戻り、さらに発展することを願っています。

農村開発・環境保全の活動

**過去に支援のアグロフォレストリー受益者からの株分けで、バナナ栽培拡大中**

— 先住民族学校 ILS アニータ先生指導のティヌオスと、元奨学生ボニファシオ指導のボルールの組合 TBA で —



バナナの在来種サバは甘みが強く、先住民族学校があるティヌオスで2014年度に支援したアグロフォレストリー受益者は、レイクセブ公設市場でキロ当たり5ペソ(11円)で販売、良い収入源になっています。また、教育省が健康上の理由から校内売店でのスナック菓子販売を禁止したため、学校もバナナの有力な販路となりました。さらに無農薬バナナの葉はレストランの食器としての需要もあります。

ILSでは父母や地域住民の収入源として、また、山腹斜面の土壌保全のため、過去の事業対象から漏れた住民にもバナナ栽培を勧め、また、学校農園での栽培増加を目指しています。一方で過去の受益住民は新規栽培地域への株分けによる収入にも期待しています。



バナナ苗定植作業

一方、昨年度モデル農園事業を実施したボルールの組合 TBA も、ボニファシオにより傾斜地農法を学んだ30名が、各50計1500本のバナナ栽培を始めました。

苗木(株)は、2018年度の事業地域、ツピ町クロッドの受益者から購入することにしました。

なお、クロッドはPPFのニックとともに、ボニファシオも、バナナを含む各種苗木の植栽指導に当たった地域で、今年度のアグロフォレストリー評価対象に含めました。

7月13日付メールによれば、果樹苗なども順調に育ち、急傾斜地に植えた在来種ナボルやナラは、3mほどに成長して、事業目的の一つ土壌流出防止に役立っているということです。苗木生育状況の詳細確認、住民の聞き取り調査は、町域を超えての不要不急の移動に制限がある中、慎重に進めてほしいと思っています。